

# Economic Indicators

発表日: 2020年6月17日(水)

## 貿易統計(2020年5月)

～輸出入は4月から一段と減少、5月を底に回復が見込まれるも持ち直しは限定的なものに～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

エコノミスト 奥脇 健史 (TEL: 03-5221-4524)

		貿易収支(億円)				輸出数量				輸入数量					
		原数値		輸出金額		前年比		アメリカ		前年比		EU		前年比	
				前年比	前年比			前年比	前年比			前年比	前年比		
19年	6月	5,881	866	▲ 6.6	▲ 5.2	▲ 5.5	2.9	▲ 6.1	▲ 5.3	▲ 3.2	2.9	▲ 6.2	▲ 3.7		
	7月	▲ 2,539	▲ 332	▲ 1.5	▲ 1.1	1.4	10.1	5.7	▲ 5.0	6.6	9.4	0.9	8.3		
	8月	▲ 1,522	▲ 841	▲ 8.2	▲ 11.8	▲ 5.9	▲ 3.5	▲ 1.5	▲ 8.9	▲ 6.1	▲ 3.0	▲ 3.3	▲ 4.1		
	9月	▲ 1,291	▲ 585	▲ 5.2	▲ 1.4	▲ 2.3	▲ 4.0	3.7	▲ 6.0	6.7	▲ 1.0	8.8	8.1		
	10月	112	▲ 392	▲ 9.2	▲ 14.7	▲ 4.4	▲ 6.7	▲ 8.4	▲ 7.1	▲ 6.1	▲ 7.6	▲ 10.3	▲ 7.0		
	11月	▲ 884	▲ 1,533	▲ 7.9	▲ 15.6	▲ 5.0	▲ 9.7	▲ 10.3	▲ 2.7	▲ 8.1	▲ 1.4	▲ 10.6	▲ 8.5		
	12月	▲ 1,591	▲ 2,007	▲ 6.3	▲ 4.8	▲ 1.9	▲ 11.4	▲ 7.4	0.5	1.2	▲ 5.0	2.5	0.5		
20年	1月	▲ 13,151	▲ 2,382	▲ 2.6	▲ 3.6	▲ 1.6	▲ 8.9	▲ 9.1	▲ 1.5	▲ 1.7	▲ 19.9	1.2	0.3		
	2月	11,066	3,517	▲ 1.0	▲ 13.9	▲ 2.4	▲ 4.5	▲ 9.7	▲ 0.9	▲ 17.3	▲ 11.1	▲ 8.5	▲ 25.0		
	3月	72	▲ 3,254	▲ 11.7	▲ 5.0	▲ 11.2	▲ 15.9	▲ 9.1	▲ 10.5	▲ 2.5	▲ 1.8	▲ 2.6	▲ 2.6		
	4月	▲ 9,319	▲ 10,431	▲ 21.9	▲ 7.1	▲ 21.3	▲ 36.9	▲ 27.7	▲ 11.8	1.4	4.4	▲ 0.2	5.6		
	5月	▲ 8,334	▲ 6,010	▲ 28.3	▲ 26.2	▲ 27.3	▲ 49.4	▲ 34.8	▲ 11.4	▲ 14.9	▲ 22.8	▲ 26.6	▲ 8.7		

(出所) 財務省「貿易統計」、前年比(%)

### ○輸出入ともに前年比▲20%台後半の減少、4月から一段と落ち込む結果に

財務省より発表された5月の貿易統計によると、貿易収支は▲8,334億円の赤字(コンセンサス: ▲10,518億円の赤字、レンジ: ▲14,535億円～▲5,623億円の赤字)となり、コンセンサスをやや上回る結果となった。輸出金額は前年比▲28.3%(コンセンサス: 同▲26.1%、レンジ: 同▲37.1%～同▲22.1%)、輸入金額は同▲26.2%(コンセンサス: 同▲20.7%、レンジ: 同▲44.8%～同▲15.0%)となり、輸出入ともに前年比▲20%後半の減少と4月から下げ幅が拡大した。

品目別にみると、輸出については、自動車(前年比▲64.1%)、自動車の部分品(同▲57.6%)などが4月に引き続き大幅に減少した。輸入については、原油価格の低迷を受け原粗油(同▲78.9%)が4月から一段と落ち込んだ一方、織物用糸・繊維製品(同+141.8%)と4月に引き続き大幅に増加している。

季節調整値でみると輸出金額は前月比▲5.8%、輸入金額が同▲12.0%となり、4月から輸出入ともに減少した。貿易収支は▲6,010億円の赤字と4月(▲10,431億円の赤字)から赤字幅は縮小したが、輸出以上に輸入が落ち込んだ結果であるため、内容は良いとは言えないだろう。

4月に引き続き世界各国で行われた経済活動制限の動きを反映し、5月の輸出入はともに前年比で大幅に減少した。また、輸入については原油価格の大幅な下落も影響している。足下では世界各国で経済活動再開が進んでおり、5月を底に輸出入は持ち直す可能性がある。ただし、経済活動再開は段階的なものとなっており、輸出入の急激な回復は見込めないだろう。

### ○実質輸出は前月比▲6.6%、欧米向けを中心に4月から一段と落ち込む

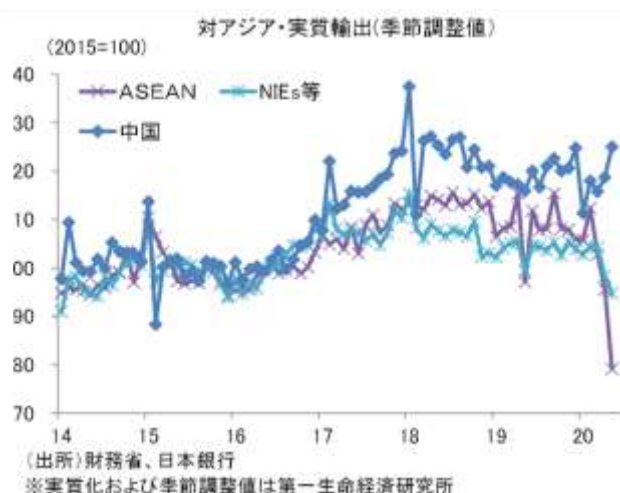
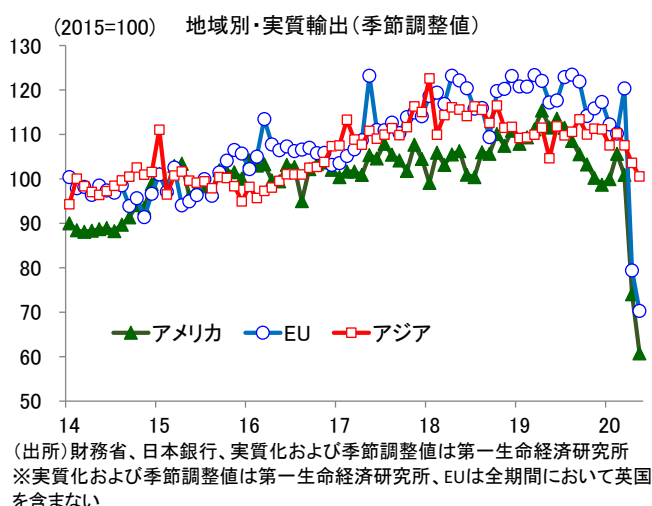
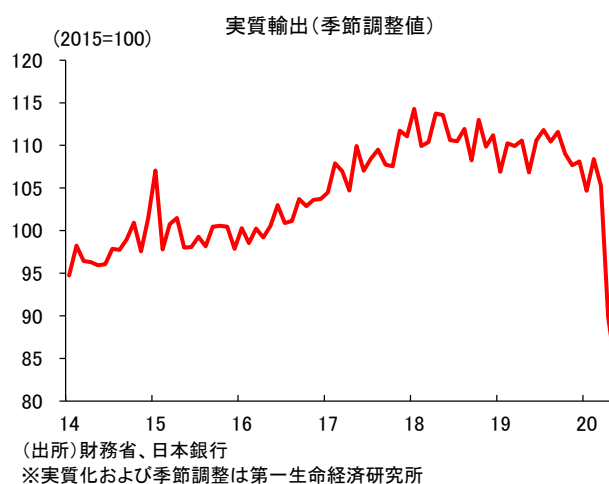
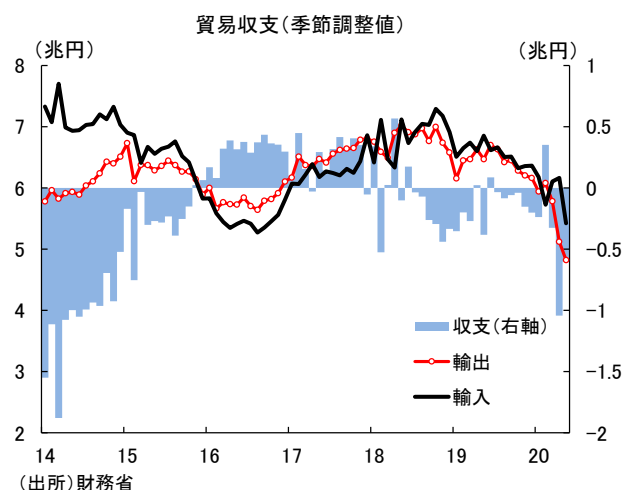
為替などの価格変動の影響を除いた5月の実質輸出(実質化・季節調整は第一生命経済研究所試算)は、前月比▲6.6%(4月: 同▲14.6%)となった。自動車等の輸送用機器(同▲22.8%)や金属・同製品(同▲12.3%)などが4月かさらに大きく減少するなど、多くの品目が4月から減少した。

国、地域別にみると、米国向けが前月比▲18.0%、EU向けが同▲11.4%と、輸送用機器、電気機器を中心に4月からさらに落ち込んだ。また、アジア向けも同▲2.9%と減少、こちらも輸送用機器を中心に減少した。一方、中国向けについては同+5.3%と2か月連続で増加している。欧米などでは減少品目となった輸送用機器、金属・同製品が増加に転じており、中国経済が正常化しつつあることが示された。

### ○5月を底に輸出入は持ち直す可能性があるも、その後の持ち直しは限定的に

5月の貿易統計では、世界的な経済活動制限が続いたことを受け、輸出入ともに前年比で20%台後半の減少幅となった。輸入については、中国からの輸入が一定の下支えとなったものの、原油価格下落の影響が大きく前年比で大幅に落ち込んだ。

足下では欧米などを中心に世界各国で経済活動再開の動きが進んでおり、5月を底に輸出入は持ち直すことが見込まれる。また、中国の輸出入は前年比で小幅な減少にとどまっており（輸出：前年比▲1.9%、輸入：同▲2.0%）、今後も輸出入を下支えする可能性が高い。とはいえ、新型コロナウイルス感染拡大により各国経済が大きく落ちこんだことから、輸出入の急激な回復は見込みがたい。また、感染拡大第2波のリスクや米中関係の悪化など、先行き不透明感は依然として強い。輸出入の今後の持ち直しは限定的なものとなり、年内に感染拡大前の水準に戻すことは難しいだろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。